

これは会議主催者による公式議事録ではありません。引用はお控えください。
This is not an official record by the meeting organizers. Do not quote.

タイトル	CDM 理事会質疑応答セッション CDM Executive Board: questions and answer session
主催	国連気候変動枠組条約事務局 (UNFCCC)
日時	2006年5月15日(月)13時~15時
主要討論者	<ul style="list-style-type: none"> • Jose Domingos Miguez (CDM 理事会理事・議長、ブラジル) • Hans Jurgen Stehr (CDM 理事会理事・副議長、デンマーク) • Hernan Carlino (CDM 理事会理事、アルゼンチン) • Rajesh Kumar Sethi (CDM 理事会理事、インド) • Xuedu Lu (CDM 理事会理事、中国) • Anastassia Moskalenko (CDM 理事会理事、ロシア) • John Shaibu Kilani (CDM 理事会理事、南アフリカ) • Ndiaye Cheikh Sylla (CDM 理事会代理理事、セネガル) • Clifford Anthony Mahlung (CDM 理事会代理理事、ジャマイカ) • Natalia Berghi (CDM 理事会代理理事、モルドバ) • Janos Pasztor (UNFCCC 事務局) • Kai-Uwe Barani Schmidt (UNFCCC 事務局)
傍聴者	約 100 人 (各国政府関係者、CDM プロジェクト事業者、コンサルタント、研究機関、NGO など)
目的	昨今の CDM を巡る問題や、第 24 回 CDM 理事会 (EB24、5 月 10 日 ~ 12 日開催) での審議についての質疑応答、また、CDM 理事会メンバーとの意見交換を目的。
発表の概要	事務局の Schmidt 氏より CDM を巡る昨今の動き (DOE やプロジェクト登録件数、CER 発行状況等) についてプレゼンテーションがなされた後、質疑応答に入った。
質疑応答	<p>Q1 :(ポリビア DNA 関係者): DNA フォーラムの開催の詳細、開催費用について、またアジェンダをどのように取りまとめているのか。</p> <p>A1 :(事務局/Pasztor 氏): DNA フォーラム開催については、CDM 管理計画 (CDM-MAP) にその重要性を盛り込んでいる。開催費用には、1 千万米ドルが見込まれており、現在のところ非公式ではあるが、資金拠出に関心を寄せている国もある。DNA フォーラム自体は、インフォーマルセッションになる予定。来週にでも詳細を明らかにできる見込み。</p> <p>Q2 :(IETA) EB24 での追加性ツールに関する審議内容について。</p> <p>A2 :(Miguez 議長) EB24 で、追加性ツールについて審議を開始したところであり、詳細については EB24 レポートに記載している。また Meth パネルでの検討も要請したところである。</p> <p>Q3 :(UNICEF 気候変動グループ) CDM 関連の活動資金について。モントリオールでの COP/MOP にて資金拠出表明をし、まだ拠出していない国に対して、圧力を</p>

これは会議主催者による公式議事録ではありません。引用はお控えください。
This is not an official record by the meeting organizers. Do not quote.

	<p>かけているのか？</p> <p>A3 : (Miguez 議長) EB24 レポート内のパラグラフ 90 ~ 95 にかけて活動資金についての記述があり、パラ 95 にて繰り返し、拠出を呼び掛ける文言を盛り込んでいます。</p> <p>Q4 : (プロジェクトディベロッパー : イスラエル) EB24 にて審議された AM0006、AM0016 の取り扱いについて、(ウェブキャスト音声不調のため) 確認させて欲しい。</p> <p>A4 : (Miguez 議長) EB24 レポートのパラグラフ 32 と 33 でカバーしているので、そちらを参照頂きたい。</p>
資料	PPT 資料 (UNFCCC 事務局 Schmidt 氏発表資料)
備考	<p>(所感) COP や SB では毎回、この CDM 理事会の質疑応答セッションに多数の傍聴者が参加し、今回も約 100 名もの参加があったが、フロアからの積極的な質疑はなく、2 時間のセッションの予定が 1 時間程度で終了した。以前は多くの質疑や批判が寄せられ、しばしば 2 時間の予定を超過していたが、CDM 登録案件の急増、またいくつかの CDM プロジェクトから実際に CER が発行されていること等、以前に比べて CDM に関する手続きが順調に進行していると肯定的に見ることもできる。その一方で、EB の決定が広範囲に渡り (最近の EB レポートでは、レポートとは別に 30 以上の附属書が添付されている) 審議内容を十分に把握できず、的を射た質疑ができず、多くの参加者は質疑を控えているのでは、と言った意見等が会場内で聞かれた。</p>

文責 : 家本 了誌 (社団法人海外環境協力センター (OECC))